

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
福岡医療専門学校		平成11年4月1日		田中 七郎		〒 814-0005 (住所) 福岡県福岡市早良区祖原 3 - 1 (電話) 092-833-6120		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人福岡医療学院		平成11年4月1日		田中 七郎		〒 814-0005 (住所) 福岡県福岡市早良区祖原 3 - 1 (電話) 092-833-6120		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		診療放射線科		平成25(2013)年度		平成26(2014)年度	
学科の目的		豊かな人間性が高い実践力を備え、チーム医療に貢献し、進化する医療技術に柔軟に対応できる診療放射線技師を養成する。						
学科の特徴（取得可能な資格、中退率 等）		診療放射線技師国家試験受験資格						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	3,000 単位時間	1,740 単位時間	420 単位時間	660 単位時間	150 単位時間	30 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
240 人	218 人	0 人		0 %	15 %			
就職等の状況	■卒業者数 (C)		33	人				
	■就職希望者数 (D)		31	人				
	■就職者数 (E)		31	人				
	■地元就職者数 (F)		12	人				
	■就職率 (E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		39	%				
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		94	%				
	■進学者数		2	人				
	■その他							
	(令和 7 年度卒業者に關する令和8年5月1日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：		0					
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月： 平成29年3月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.jusei.ac.jp/outline/thirdparty.html							
当該学科のホームページ URL	URL: https://www.jusei.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B：単位数による算定)							
	総単位数				102 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				12 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
うち必修単位数				102 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				12 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者（専修学校設置基準第41条第1項第1号）				9 人			
	② 学士の学位を有する者等（専修学校設置基準第41条第1項第2号）				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者（専修学校設置基準第41条第1項第3号）				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位（専修学校設置基準第41条第1項第4号）				3 人			
	⑤ その他（専修学校設置基準第41条第1項第5号）				0 人			
	計				12 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数				12 人			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員には、以下の両方または何れかの条件を満たす者を選定している。
1. 業界団体に所属し、要職に就いている有識者
2. 現場を指揮し、医療の最先端で活躍している院長や所属の長
このような業界全体の動向、実務に関する知識や技術に関する知見を有する委員からの要請等を教育課程編成委員会にて協議していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本学の教育課程は、教育課程編成委員会の意見を踏まえて、教務委員会が編成する（学則第14条及び学校会議規程第4条）。
教育課程編成委員会の位置付け及び審議内容が採用される過程は、以下の通りである。
① 第1回教育課程編成委員会では、前年度の教育課程を実施した結果や当年度の教育課程の進捗状況等が報告される。委員による審議が行われ、委員から意見を聴取する。審議内容及び意見は教務委員会に直ちに報告され、当年度の教育課程や指導方法等の改善に活用される。
② 第2回教育課程編成委員会では、第1回委員会で聴取された意見に対する改善策の実施状況について審議が行われる。その審議結果を踏まえて、次年度の教育課程の編成に対する意見を委員から聴取する。
③ 第2回委員会で聴取した意見は、副校長、学科長、専任教員及び非常勤講師が参加する次年度教育内容会議において審議される。そこで審議した結果を踏まえて、教務委員会が次年度の教育課程を編成する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年3月31日

名 前	所 属	任期	種別
田中 七郎	福岡医療専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	—
藤瀬 敏子	福岡医療専門学校 事務長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	—
長門 俊一	福岡医療専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	—
市原 隆洋	福岡医療専門学校 診療放射線科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	—
高橋 正徳	横浜市南部地区放射線技師会 理事 医療法人久幸会 川口きゅうばりハビリステーション副	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	③
義本 正二	医療法人社団誠和会 牟田病院 事務長 同 画像診断科 元技師長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	③
丸山 裕稔	放射線技術学会 九州支部総務担当理事 国立病院機構 熊本医療センター 診療放射線技師長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年間開催数は年2回 開催時期は毎年6月と11月

（開催日時（実績））

第1回 令和7年 6月21日（土）15：00～17：00

第2回 令和7年11月15日（土）15：00～17：00

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今後の課題として、以下の事項に取り組むこととした。

1. 基礎学力支援および専門導入教育体制の構築

入学初期における基礎学力の不足が専門教育の理解を妨げている現状を受け、1年次の基礎固めと学習習慣の定着を主眼としたカリキュラム改善を行う。

- ・入学前教育の強化と基礎プログラムの創設
- ・ICT・動画教材（eラーニング）の導入による自学自習支援
- ・モチベーション形成と退学防止・メンタルサポート

2. 社会性・職業観の形成に向けた教育方針の強化

臨床実習における学生の社会性やモラルの課題に対応するため、1年次から段階的にマインドを育成する教育体系へと再編する。

- ・「医療人基礎教育（仮称）」の新設と体系化
- ・学外リソースを活用したキャリア教育の推進

3. 臨床実習における実習前指導の標準化と効果検証

実習効果の最大化と受け入れ施設とのスムーズな連携を目指し、実習に臨む条件の厳格化と指導内容の均一化を図る。

- ・実習前指導の標準化と「実習可否判断」の導入
- ・実習環境の整備と受け入れ施設との連携強化

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療機関との緊密な連携により、最新の医療ニーズに即した実践的な臨床放射線技術を習得させることを基本方針とする。講義・実習で学んだ基礎（X線撮影、診療画像検査、放射線治療、核医学検査技術学）を現場で深化させるため、原則5年以上の臨床経験を有する優れた臨床実習指導者を選定する。医療現場の指導層と本校教員が一体となり、実務に直結した質の高い臨床教育を組織的に実践する。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床実習の実施にあたっては、学校教員と臨床実習指導者が事前に打ち合わせを行い、実習内容、到達目標、学修成果の評価基準等を共有・設定する。

実習期間中は、学校教員と臨床実習指導者が相互に学生の学修状況を確認しながら、臨床現場に即した実践的な指導を行う。また、学生に対して適宜指導・助言を行い、知識・技術・態度の修得状況を把握する。

実習終了時には、学校教員と臨床実習指導者が連携して学修成果を総合的に評価し、成績評価および単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習Ⅰ	臨床実習では診療放射線技師としての業務を熟知した臨地実務実習指導者による指導の下、実際の医療現場で行われる放射線機器等の取扱い、患者への対応、他職種との連携や医療情報の取扱いについて実践的に学ぶ。 臨床実習Ⅰでは病院のシステムを理解し、診療放射線技師としての役割を学ぶ。		戸田中央総合病院、千葉労災病院、 君津中央病院、村上華林堂病院、 洛和会音羽病院 総数24施設
臨床実習Ⅱ	診療放射線技師としての業務を熟知した臨地実務実習指導者による指導の下、実際の医療現場で行われるX線単純撮影、透視、CT、各種造影検査、MRI、超音波画像検査に関する診療を体験する中で診療放射線技師としての基本的な実践能力を身につけ、医療チームの一員としての責任と役割を学ぶ。		戸田中央総合病院、千葉労災病院、 君津中央病院、村上華林堂病院、 洛和会音羽病院 総数24施設
臨床実習Ⅲ	診療放射線技師としての業務を熟知した臨地実務実習指導者による指導の下、実際の医療現場で行われる核医学検査、放射線治療を中心とする検査に関する診療を体験する中で診療放射線技師としての基本的な実践能力を身につけ、医療チームの一員としての責任と役割を学ぶ。		戸田中央総合病院、洛和会音羽病院、 上尾中央総合病院、千葉労災病院、 君津中央病院 総数12施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校は、教員が学生に対し、社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より職業実践的な教育をすることを目的に掲げている。

この目的を達成するためには、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、次に掲げた事項を進めることにより、教員の資質向上の支援を行っている。

1. 研修規程を定めて、計画的かつ継続的な研修受講を支援する。

2. 本校附属臨床施設(福岡医療学院整骨院・福岡医療学院鍼灸院・福岡医療クリニック)での臨床経験を積むことにより、実際の現場での知識・技術の修得をすすめる。

3. 外部機関(学会・研究会・研修等)に対して会場提供を積極的に行い、様々な分野での知識修得を奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第11回福岡県診療放射線技師会学術大会	連携企業等:	福岡県診療放射線技師会
期間:	6月28日	対象:	専任教員
内容	地域医療における放射線技術の最新動向を把握し、教育内容の充実を図る。		
研修名:	日本放射線安全管理学会第24回学術大会	連携企業等:	日本放射線安全管理学会
期間:	12月15日～17日	対象:	専任教員
内容	放射線安全管理および放射線防護に関する最新知見を習得する。		
研修名:	第30回放射線画像情報システム研究会	連携企業等:	放射線画像情報システム研究会
期間:	2月21日	対象:	専任教員
内容	医療情報システムおよび画像情報管理に関する知識・技術を習得する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第81回日本放射線技術学会総会学術大会	連携企業等:	日本放射線技術学会
期間:	4月11日～14日	対象:	専任教員
内容	最新の放射線技術、画像診断、教育手法、研究成果等に関する知見を得ることで指導力を向上させる。		
研修名:	第70回全国診療放射線技師教育施設協議会	連携企業等:	全国診療放射線技師教育施設協議会
期間:	6月20日	対象:	専任教員
内容	教育課程、臨床実習、カリキュラム改善に関する情報共有を行い実務の質および指導力を向上させる。		
研修名:	第51回全国私立診療放射線技師養成施設長会議	連携企業等:	全国私立診療放射線技師養成施設長会議
期間:	10月24日	対象:	専任教員
内容	養成施設における教育課程、学生指導および教育体制に関する知見を習得する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第30回日本医療情報学会春季学術大会	連携企業等:	日本医療情報学会
期間:	6月11日～13日	対象:	専任教員
内容	医療情報システム、医療DXおよび医療情報活用に関する最新知見を習得し、教育内容へ反映する。		
研修名:	第12回福岡県診療放射線技師会学術大会	連携企業等:	福岡県診療放射線技師会
期間:	6月27日	対象:	専任教員
内容	地域医療における放射線技術の最新動向を把握し、教育内容の充実を図る。		
研修名:	第67回日本人間ドック・予防医療学会学術大会	連携企業等:	日本人間ドック・予防医療学会
期間:	9月4日～5日	対象:	専任教員
内容	予防医療および健康管理に関する最新知見を習得し、教育内容へ反映する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第82回日本放射線技術学会総会学術大会	連携企業等:	日本放射線技術学会
期間:	4月16日～19日	対象:	専任教員
内容	最新の放射線技術、画像診断、教育手法、研究成果等に関する知見を得ることで指導力を向上させる。		
研修名:	第71回全国診療放射線技師教育施設協議会	連携企業等:	全国診療放射線技師教育施設協議会
期間:	6月19日	対象:	専任教員
内容	教育課程、臨床実習、カリキュラム改善に関する情報共有を行い実務の質および指導力を向上させる。		
研修名:	第52回全国私立診療放射線技師養成施設長会議	連携企業等:	全国私立診療放射線技師養成施設長会
期間:	10月16日	対象:	専任教員
内容	養成施設における教育課程、学生指導および教育体制に関する知見を習得する。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校は自己点検・自己評価委員会を設置して、①教職員全員による自己点検・評価、②学校関係者(企業等の役員又は職員、地域住民、保護者、校友会会長等)による評価を実施し、その結果についてこの報告書にまとめ、ホームページに公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念、目的、育成人材像 ・学校の特色 ・学校の将来構想
(2)学校運営	・運営方針 ・事業計画 ・運営組織、意思決定効率化 ・人事、賃金制度 ・意思決定システム ・情報システム化等による業務効率化
(3)教育活動	・教育目標、育成人材像、到達レベル ・カリキュラム ・授業評価 ・教員確保 ・単位認定 ・資格取得
(4)学修成果	・就職率向上 ・資格取得率向上 ・退学率低減 ・社会的活躍、評価の把握
(5)学生支援	・就職、進学 ・学生相談 ・経済的支援 ・健康管理 ・課外活動 ・生活環境 ・保護者連携 ・卒業生支援
(6)教育環境	・施設、設備 ・学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施 ・防災体制
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動、教育成果 ・入学選考 ・学納金
(8)財務	・中長期的財務基盤 ・予算、収支計画
(9)法令等の遵守	・法令、設置基準等 ・個人情報保護 ・自己点検、自己評価の実施等
(10)社会貢献・地域貢献	・社会貢献の実施 ・学生ボランティア活動支援等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

令和7年度は自己点検・評価報告書を資料にして、教職員と意見交換を実施しながら、学校関係者評価委員会を行った。
【本学院並びに本学科に対する提言は以下の通り】

- 令和7年度の重点目標の1つ「退学者0ゼロ」に向けての教職員の取り組みは、効果があり重要性を認識し、指導を継続する。
 - SNSの取扱い等を中心に多様化する環境への対策(研修会等への参加等)が必要である。特に学生の倫理観についての指導教育が求められる。
 - 国家試験の合格率は全国平均を大きく上回っている。国家試験の出題傾向の変化に対応が必要である。更に良い結果が出ることを期待している。全科国家試験100%を目指し、知識・技術・人間性を備えた医療人材育成を期待する。
- 以上の学校関係者評価委員より得た意見を、運営会議、教職員会議等において学校全体で共有し活用する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
山本 亮	山本祐司・亮司法書士行政書士事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	地域住民
下迫 勇夫	福岡医療専門学校 非常勤講師	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	有識者
渡辺 淳一	(株) 堺整骨院西 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	本校卒業生
宮城 徳久	鍼灸整体院サロンMiN 代 表	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	本校卒業生
古川 辰巳	株式会社INTERACTION 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	企業等委員
山中 知愛	医療法人 西福岡病院 放射線科 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	企業等委員
行徳 倫子	(株) 医療法人フォールディングススターホーム スーパーバイザー	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL : <https://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html>

公表時期 : 令和8年7月末日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対する情報提供は、本校ホームページにおける情報公開を基本とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・教育理念 ・概要と沿革
(2) 各学科等の教育	・診療放射線科紹介・カリキュラム、取得単位数、目指す資格 ・診療放射線技師の概要、国家試験合格実績
(3) 教職員	・主たる教員紹介およびセミナー紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・セミナー ・臨床実習 ・就職キャリア支援 ・主な就職先
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学生へのフォローアップ ・施設、設備
(6) 学生の生活支援	・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	・学納金納入 ・奨学金 ・入学前サポート
(8) 学校の財務	・事業報告書 ・計算書類
(9) 学校評価	・第三者評価 ・学校関係者評価 ・自己点検、自己評価
(10) 国際連携の状況	・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL : <https://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html>

公表時期 : 令和8年7月末日

授業科目等の概要

(医療専門課程 診療放射線科)															
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員 専 任	企業等との連携
									講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外		
1	○			数学	理工系科目の基礎として高校数学の復習を行い、自然科学に必要な数学的知識と論理的思考力を養う。	1 前	30	2	○			○	○		
2	○			物理学	自然現象を法則的に理解するための基礎物理学を学び、数式を用いた論理的なアプローチを身につける。	1 前	30	2	○			○		○	
3	○			生物学	ヒトを中心に、細胞から個体までの生命現象を学び、医学の基礎となる生物学的知識を習得する。	1 前	30	2	○			○		○	
4	○			基礎実験	力学・光学・電気・物理現象の基礎実験を通じて、科学的思考力とデータの取り扱い方法を身につける。	1 前	30	1			○	○		○	
5	○			倫理学	多様な視点から物事を考える力を養い、倫理的判断や論理的思考の基礎を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			
6	○			情報科学Ⅰ	医療情報を扱う上で必要なコンピュータの構成と機能を理解し、基本的な操作技術を習得する。	1 前	30	1		○		○		○	
7	○			情報科学Ⅱ	パソコン操作や情報リテラシーを強化し、表計算・文書作成・プレゼンテーションの実践的スキルを身につける。	1 後	30	1		○		○		○	
8	○			表現法	適切な敬語や接遇を学び、場面に応じた表現力と円滑なコミュニケーション能力を育成する。	1 後	30	1		○		○			○
9	○			外国語	日常生活や職場で必要となる英語の基本表現と会話を、実践を通じて身につける。	1 前	30	1		○		○			○
10	○			スポーツ健康科学	運動体験を通じて健康の重要性を理解し、健康意識と自己管理能力を高める。	1 前	30	1			○	○			
11	○			医学概論	医学・医療の歴史と現状を学び、生命倫理や医療倫理を含めた広い視野を身につける。	1 前	30	1		○		○			
12	○			解剖生理学Ⅰ	正常な人体の構造を細胞・組織から学び、医療従事者としての基礎知識を養う。	0	30	1		○		○		○	
13	○			解剖生理学Ⅱ	各器官系の働きと関連する疾患を通じて、生理学的な人体機能を理解する。	0	30	1		○		○		○	
14	○			解剖生理学Ⅲ	呼吸器・泌尿器・神経などの重要臓器と人体発生を学び、発育・成長の理解を深める。	0	30	1		○		○		○	
15	○			解剖生理学Ⅳ	画像診断に必要な人体構造の位置関係と立体的な捉え方を修得する。	1 後	30	1		○		○		○	
16	○			病理学Ⅰ	疾患の原因・形態・経過を学び、病変としての疾患理解を深める。	1 後	30	1		○		○			
17	○			病理学Ⅱ	炎症・免疫・先天異常などを中心に、病理学的視点から疾患の成り立ちを学ぶ。	2 前	30	1		○		○			
18	○			臨床薬理学	薬物の体内動態と作用機序を学び、患者が使用する薬物に対する理解を深める。	1 後	30	1		○		○			
19	○			看護学概論	医療チームの一員として対象理解とコミュニケーション方法を学び、協働の基礎を築く。	2 後	30	1		○		○		○	
20	○			臨床医学Ⅰ	日常臨床で頻繁にみられる主要な疾患について、その原因・症状・診断・治療などの基礎的知識を学ぶ。診療放射線技師として疾患理解の土台を築くことを目的とする。	2 前	30	1		○		○			○
21	○			臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅰで学んだ疾患をもとに、診療放射線技師が画像診断や放射線治療において果たす役割や、各疾患との関わり方を具体的に学ぶ。臨床現場での実践的な理解を深める。	2 後	30	1		○		○			○
22	○			基礎医学大要演習Ⅰ	人体の構造と機能について学習する。各器官や組織の役割、生理的な働きを中心に理解を深め、診療放射線技師として必要な基礎医学の土台を築く。	3 前	30	1		○		○			
23	○			基礎医学大要演習Ⅱ	人体における病態や疾患の成り立ちについて学ぶ。病気の原因、経過、症状などを通じて、異常と正常の違いを把握し、国家試験対策としても重要な知識を系統的に身につける。	3 後	30	1		○		○			
24	○			基礎放射線学	放射線の基本概念を学び、診療放射線技師としての基礎知識を修得する。	1 前	30	1		○		○		○	
25	○			医用工学Ⅰ	直流・交流回路、静電気、電磁気など電気の基礎理論を学び、医療機器理解の土台を築く。	1 前	30	1		○		○			
26	○			医用工学Ⅱ	電子工学の基礎として、半導体、アナログ・デジタル回路、論理回路を学ぶ。	1 後	30	1		○		○			
27	○			医用工学実験	医用工学の知識を基に、電子回路や各種測定を実験を通じて理解する。	1 後	30	1			○	○			
28	○			医用工学演習	電気・電子回路の基礎を復習し、計算問題などの演習を通じて応用力を養う。	3 前	30	1		○		○		○	
29	○			放射線物理学Ⅰ	各種放射線の性質や発生原理、エネルギーに関する基本的な物理現象を学ぶ。	1 後	30	1		○		○			
30	○			放射線物理学Ⅱ	放射線物理学Ⅰの知識を基に、放射線と物質(特に人体)との相互作用や放射線の応用について学ぶ。	2 前	30	1		○		○			
31	○			放射線物理学演習	放射線物理学の講義内容を総合的に演習し、関連分野とのつながりや国家試験対策を行う。	3 通	30	1		○		○			
32	○			放射化学Ⅰ	自然放射性核種や人工放射性核種の特性、生成、分布を学び、放射線の基礎知識を習得する。	1 後	30	1		○		○			
33	○			放射化学Ⅱ	放射性同位体の医療応用に必要な取り扱い技術や特徴を学び、国家試験対策も行う。	2 前	30	1		○		○			
34	○			放射化学演習	放射化学の総復習を行い、各項目の理解を深めるとともに、国家試験対策を行う。	3 前	30	1		○		○			
35	○			放射線生物学Ⅰ	電離放射線が生体に与える影響のメカニズムを学び、線種ごとの生体影響の違いを理解する。	1 後	30	1		○		○		○	
36	○			放射線生物学Ⅱ	放射線の医療応用に関する理論を学び、放射線生物学の総合的な理解を深める。国家試験対策も含む。	2 前	30	1		○		○			
37	○			放射線生物学演習	放射線生物学の総復習を行い、各分野の知識を整理し国家試験対策を行う。	3 通	30	1		○		○			

[illegible]

83	○			臨床実習Ⅲ	核医学や放射線治療を体験し、診療放射線技師に求められる高度な知識・技能と応用力を習得する。	3 前	180	4			○	○	○	○
合計					83 科目		102 単位 (3000単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないとする。		1 学年の学期区分	2 期
	履修方法： 学年末・各学期末に行う試験・実習の成果・履修状況等を総合的に勘案し行う。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。